■日時 令和5年8月19日(土) ■天候 晴れ

埼玉県立大宮中央高校·通 対 星槎国際高校·東京·通

■球場 駒沢硬式野球場

第2試合 3回戦

■試合時間 2時間50分

■備者 8回コールド

■審判 球審:清水 塁審:英賀 松山 広中

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8				計	安	失
大宮中央•通	埼玉	0	0	0	1	1	2	0	0				4	6	8
星槎東京∙通	東京2	2	0	0	5	1	1	1	1				11	10	1

	_		·	7	
 		 -	Ŀ	ē	
			12		

		~	_																				
		ポ	ジショ	シ		氏名	<u>.</u> .	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8				
1	投	遊	_		飯	塚湯	京介	4	0	0	0	三振		投飛		三振	二ゴ						
2	中				笹	﨑魚	悠 希	3	2	2	0	遊ゴ				死球		二安					
3	Ξ				中	島	天 翔	4	0	1	0	三振			三振	左安		三振					
4	左				内	海和	四中	4	0	0	0		三振		三振	三振		Ξ					
5	右				小	池耳	豕 心	3	0	0	0		三振		死球		三振		遊ゴ				
6	捕				Ф	田	誠	2	1	0	0		三振		四球		四球		Ϊ				
7	_		П		篠	田野	令志郎	3	1	2	1			右安	中安		三失		四球				
8	遊	投			松	戸個	憂 和	4	0	1	2			三振	三振		右2		一飛				
9			遊		阿	部技	石真	3	0	0	0			三振		三振	三振						
							·																
						合計	 	30	4	6	3	残暑	塁:7	併肴	殳∶0								

備考

■バッテリー

投手	捕手
飯塚涼介	白田 誠
松戸優和	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
飯塚涼介	3 1/3	16	4	4	3	3	78
松戸優和	4 1/3	31	6	2	5	2	89

星槎東京•通

		#³	ジショ	a`/		氏名		打	得	安	点	1	2	3	4	4	5	6	7	8			
	_	_	//-	1/	`T.		_			×	.m			-			_		,	_			
1		投				井 康	太	5	2	1	1	右失			四球		中安			中失			ldot
2	遊				大立	目 隆	己	4	2	1	3	四球			右2		死球		П	遊ゴ			
3	Ξ	_			吉	睪誠	卓	4	0	0	0	三振		左飛	捕邪		死球		三振				
4	捕				宮	睪 陽	向	4	1	3	2	右犠		中安	左安		一飛		左安				
5	投	Ξ			西右	讨 颯	真	5	1	3	2	二安		遊飛	二失			中安	中2				
6	中				江	頭 佑	星	4	1	0	0	四球			三失	遊ゴ		遊ゴ	遊ゴ				
7	左				小	林 黎	也	4	1	1	1	三ゴ			中安		左飛	三選		四球			
8	右				中	村 泰	紀	2	0	0	0		三振		三振								
8		右			前日	田 光	紀	3	0	0	0						三振	投ゴ		投ゴ			
9	\equiv				榊「	亰 悠	斗	3	3	1	0		右飛		投失			四球		四球			
H						合計		38	11	10	9	碑	塁:13	併	- 殺:0	<u> </u>					 		=
						шиі		00	- ' '			12.3	£.10	ועו	4X. U								\dashv
										備	考												

■バッテリー

■投手成績

投手	捕手
西 村 颯 真	宮澤陽向
酒 井 康 太	

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
西村颯真	3 0/3	11	2	7	0	1	51
酒 井 康 太	5	24	4	9	5	2	94

■戦評

大会3日目、駒沢オリンピック公園硬式野球場での第2試合は3回戦、前日の2回戦で神奈川県代表日々輝学園高校・横浜・通信制との試合を制した埼玉県代表埼玉県立大宮中央高校・通信制と2回戦で東海地区代表クラーク記念国際高校・名古屋・通信制との試合を制した東京都第2代表星槎国際高校・東京・通信制の対戦となった。初回先攻の大宮中央を三者凡退に打ち取った後攻の星槎国際・東京が、敵失と四球のチャンスから犠打と安打で2点先制した。4回表2点を追いかける大宮中央は、笹崎の三塁打を皮切りに死球と四球で満塁にすると、篠田がタイムリーヒットで1点を返す。だがその裏星槎国際・東京が敵失からチャンスを作り、大立目のタイムリーツーベースヒットなど安打や四球を絡めて打者一巡の猛攻で5点追加した。5回から7回にかけて互いに譲らず点を取り合うが、点差が埋まらない展開が続いた。その後8回裏、四球、敵失から1点を追加した星槎国際・東京が8回コールド4-11で勝利し準決勝に進出した。